

教えて!! ドクター + Q&A

Q 女性の「更年期」はよく耳にしますが、男性にもあるのでしょうか？教えてください。

A 十数年前に日本でも男性更年期障害が知られようになり、LOH症候群と呼ばれるようになりました。現在日本では女性は700万人、男性は600万人いるといわれています。

加齢とともに男性ホルモンが低下し、自律神経症状をはじめとするさまざまな更年期症状を呈します。なんとなくだるい、よく眠れない、集中できない、ED

(勃起不全)といった症状から、メタボリックシンドローム、心血管疾患、糖尿病、呼吸器疾患の罹患リスクを高め、さらに男性ホルモンの低下は寿命を短くさせることも報告されています。

女性の場合は閉経時期の前後10年間を中心に急激に女性ホルモンが低下し、時間とともに症状は多くの場合回復しますが、男性ホルモンは40才から徐々に低下し、多くは40才から60才において発症します。しかし、女性と異なり男性の場合、待ついても症状が改善されないのが特徴で、男性ホルモンへの投与が必要になる場合があります。

更年期障害のある50代の女性でも4割しか医療機関に受診しておらず、男性の場合、多くは心療内科を受診して抗うつ薬を投与により、逆に更年期症状が悪化させている場合もありま

す。男性更年期障害の正確な診断と治療は、中高年期のQOLを高め、健康の鍵につながります。

この様に、男性更年期障害は中高年期以降、誰でもなり得る可能性があり、問診と血液検査で簡便に診断できますので、「なんとなく体調が悪い」と感じたら更年期外来を受診されることをお勧めいたします。



北村内科クリニック
理事長 北村 秀綱

神戸大学医学博士。日本内科学会内科認定医。日本循環器学会循環器専門医。日本抗加齢学会正会員。高濃度ビタミンC点滴療法学会正会員。神戸大病院や民間病院で20年以上多数の心臓ペースメーカーやカテーテル手術をはじめ、生活習慣病や人工透析にも携わる。クリニック開院以来、循環器、呼吸器疾患からエイジングケアまで幅広い年齢層の患者様が数多く来院される。